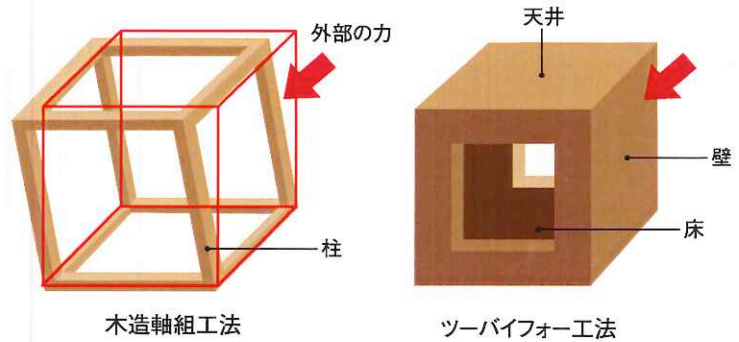


基本性能

ソルヴィエント大倉山の全戸に採用したツーバイフォー工法は、19世紀に北米で生まれ、その後アメリカ全土に普及しました。北米には今も当時の建物が多数残り住み継がれています。ツーバイフォー工法が日本へ伝えられたのは明治初頭。現在も美しい姿をたたえる代表的な建築物は、札幌時計台や自由学園明日館など。住宅においても、築80～90年以上経てツーバイフォー工法の優れた耐久性を幾多の家々が実証しています。

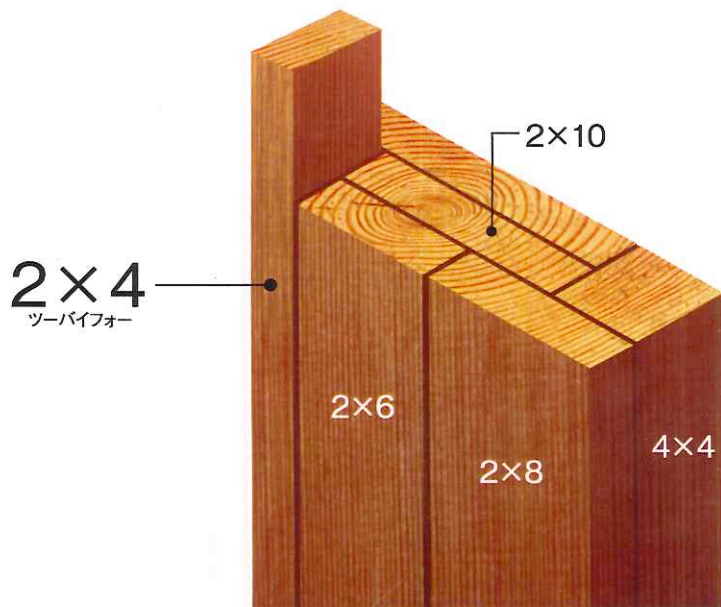
優れた基本性能を持つ 2×4 工法

「ツーバイフォー工法の家は強い」と言われます。その一番の理由が、壁と天井と床を構造耐力に優れたパネルで構成する、6面体構造にあります。正式には「枠組壁工法」と言われ、日本古来の軸組工法が建物を梁や柱で支えるのに対し、6つの面でしっかり支える工法です。地震や強い風雨などの外力に対しては、6面全体で受け止めて揺れを制御してバランス良く吸収します。荷重を一点に集中させる事なく分散させるので、地震に強く、揺れが少ない優れた効果を発揮します。



ツーバイフォーの特徴

「two by four」。日本での正式名称を「枠組壁工法」という、ソルヴィエント大倉山が採用した「ツーバイフォー工法」。今や世界でも多く一般に広まった工法で、6種類の規格材のうち「約2インチ×約4インチ(ツーバイフォー)」材を主な基本構造材とすることから、そう呼ばれるようになりました。多くの特長を持つことから世界的に普及し、構造材規格の国際統一を果たしています。これにより、安定した部材の供給や高品質、現場での汎用性、また、増改築の際にも材料不足や材料違いといった問題が起きないメリットもあります。



人に優しい木の家

ツーバイフォー工法の構造材は、自然素材である木。鉄やコンクリートより熱伝導率が低い木は、ぬくもりを感じる素材です。また、人の体重を支える足への負担は想像以上に大きいものですが、適度な弾力性をもつ木の床は、やわらかな触感で人にやさしく、鉄やコンクリートなどと比べ、疲労を心地よくやわらげてくれます。しかも木には独特の芳香成分が含まれており、気持ちをゆったりとリラックスさせてくれる森林浴効果もあります。さらに、建材としての木は生産に必要とされるエネルギーが極めて小さく、鉄を生産する場合に比べて約200分の1。環境に負担をかけないだけでなく再生も可能で、地球にやさしい資源です。

